

AI時代の教育と評価

意志ある学びをかなえるプロジェクト学習・ポートフォリオ・対話コーチング

内容

1章 与えられた学びから意志ある学びへ

- 1 新しい時代 — アクティブラーニングで「創造的な思考」
- 2 AI時代に求められる「正解なき教育」
- 3 教育イノベーション 与えられた学びから意志ある学びへ
- 4 次世代教育 — 4つの修得知モデル

2章 AI時代の教育——プロジェクト学習・ポートフォリオ・対話コーチング

- 1 プロジェクト手法で新しいカリキュラムマネジメント
- 2 次世代教育の『設計思想』
- 3 プロジェクト学習とポートフォリオの相互機能
- 4 AI時代の教育力 — 現実をステージとする教育
- 5 4つの実践モデル — 社会的課題（ソーシャルソリューション）

3章 AI時代のリテラシー 対話・俯瞰・シェア

- 1 「正解なき教育」の時代へ
- 2 AI時代に求められる新リテラシー
 - 知識と現実を結びつけるセンシング力
 - 考える力のためのクリティカルシンキング
 - アクティブシンキング — 深く考えるための対話

4章 課題発見から課題解決までの思考プロセス

- 1 プロジェクト学習で「課題解決力」を身につける
- 2 課題解決の思考プロセスとコーチング — 「課題解決シート」

5章 アクティブラーニング——成長への評価

AI時代の評価 — イノベーション 10

- 評価の目的が変わる
 - 評価の対象が変わる
 - 評価の方法が変わる
- 未来社会に役立つ評価へ

未来教育オンライン講座



6章 プロジェクト学習の実践セオリー

課題発見・課題解決のセオリー
目標設定・プロセス評価のセオリー
学びのシーンに応じたアクティブ・コーチング

7章 キャリアパスポートで未来をひらく

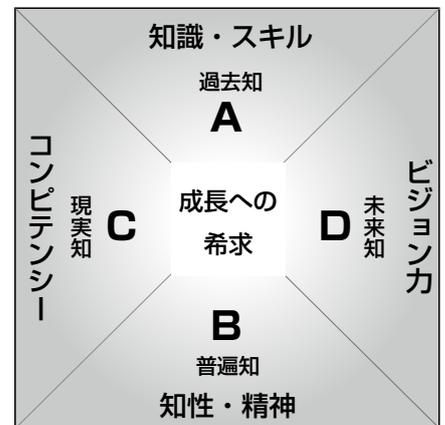
B5判・228頁

予価：本体 2,800 円＋税

鈴木敏恵 著



図：次世代教育—4つの修得知



A：過去から脈々と受け継いできた膨大な知識。IT、人工知能、ロボットが得意。

C：力量（物事をやりとげる能力）、能力（成果に直結する能力）。正解や公式がなくリアルな現実と対座する必要があるため AI は不得意。

D：未来をよくしたいという願い（ビジョン）をかなえるために、現状から課題を発見して解決していく、人間だけが持つ夢を実現する力。

B：人間としての心、精神、魂。創造や行動の拠点、ACD、すべてのベース。

教育出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10 電話 03-3238-6964 ファックス 03-3238-6999
ホームページ <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>

注文書

(※書店にご注文ください)

AI時代の教育と評価

意志ある学びをかなえるプロジェクト学習・ポートフォリオ・対話コーチング

予価：本体 2,800 円＋税 ISBN978-4-316-80435-4

●お名前 _____

●ご住所 〒 _____

●電話 _____

お取り扱い店

AI時代の教育と評価

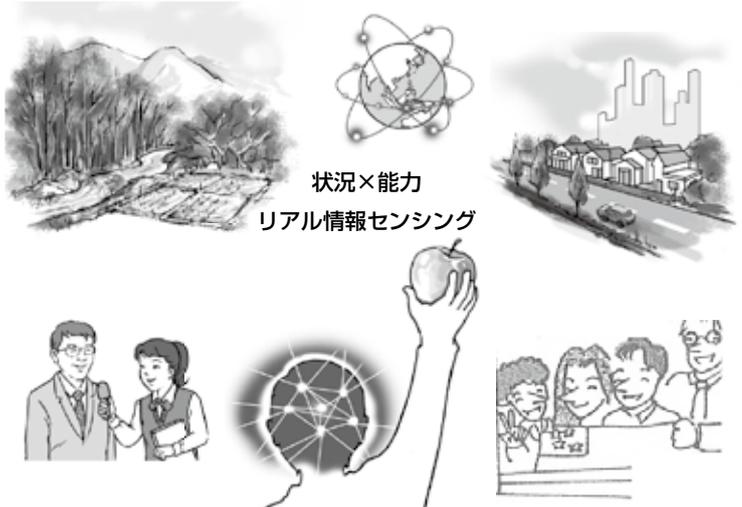


意志ある学びをかなえるプロジェクト学習・ポートフォリオ評価・対話コーチング

構想設計
鈴木敏恵

新刊の一部紹介！ AI時代の「教育と評価」モデル

与えられた学び → 意志ある学び



知の獲得

アクティブシンキング

知の共有

アクティブラーニング



a これまでの教育

- ① 教師が学習者へ知識や情報を与える
- ② 知識やスキルの習得
- ③ 指導／ティーチング
- ④ 正解が一つしかない／模範解答
- ⑤ 一斉授業、均等な進度
- ⑥ 部分知：教科間の関連性が少ない
- ⑦ 学習空間は教室（クローズ）

b これまでの評価

- ① 「知識・スキル」をテストで評価する
- ② 出来た、出来ないの判定・査定をする
- ③ 「結果」を見て評価する
- ④ 教師や指導者が評価する
- ⑤ 「正解」と照らしあわせて評価する

A 新しい教育

- ① 学習者自ら知識や情報を獲得するー自己学習・情報共有
- ② 創造的思考／コンピテンシー（応用力・実践知）の修得
- ③ 対話・セルフコーチング
- ④ 正解なき教育／課題発見・解決力／試行錯誤
- ⑤ 個別進度／資質、個性、才知を高める教育
- ⑥ クロスカリキュラム／全体知／俯瞰
- ⑦ 学習空間は、現実社会（オープン） 地域、社会、ネット・グローバル

評価とは価値を見出すこと

B 新しい評価

- ① 「コンピテンシー」をポートフォリオなどからみる
- ② どんなふうに取り組んだのか獨創性・工夫・戦略などを評価する
- ③ 「プロセス」を評価する
- ④ 自己評価・相互評価・専門評価・社会評価
- ⑤ 「課題解決セオリー」をふまえているか評価する